

# 政府共通プラットフォームのイメージ

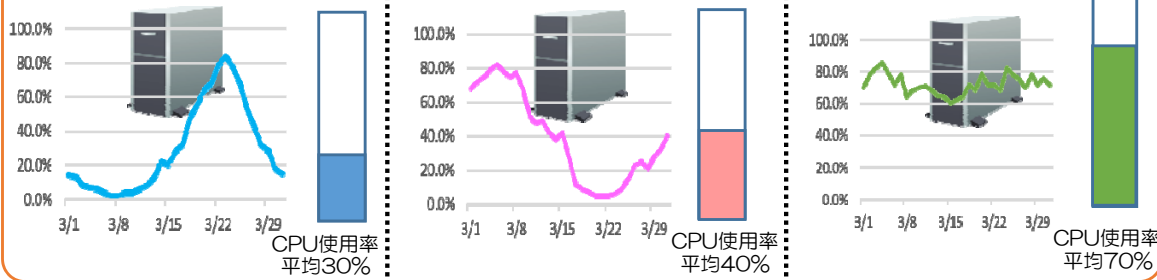
リソース使用量

Aシステム

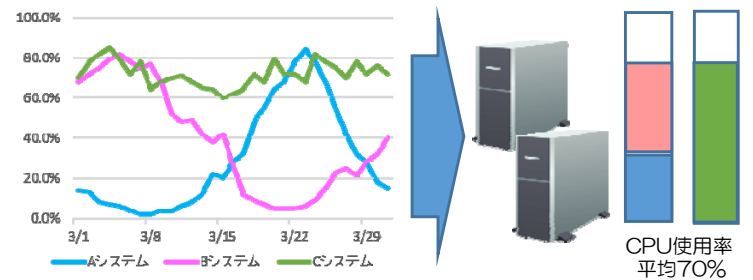
Bシステム

Cシステム

各システムごとにピークに応じたリソースを準備することが必要

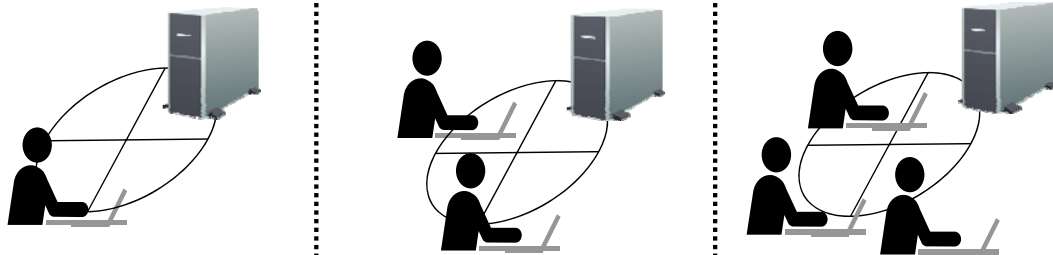


リソースの共用によるサーバ等の台数削減

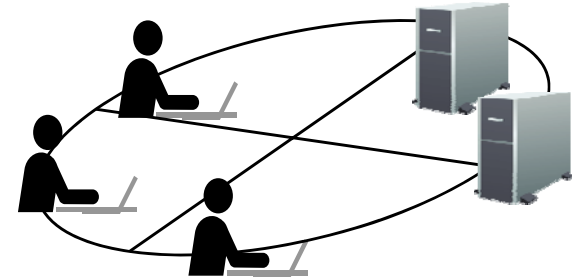


運用・監視体制

各システムごとに運用・監視体制を整備することが必要

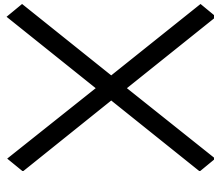


運用監視の一元化による運用要員の削減、監視強化



ファイアウォール等

各システムごとにファイアウォールの設置等が必要



設置なし



ファイアウォール設置



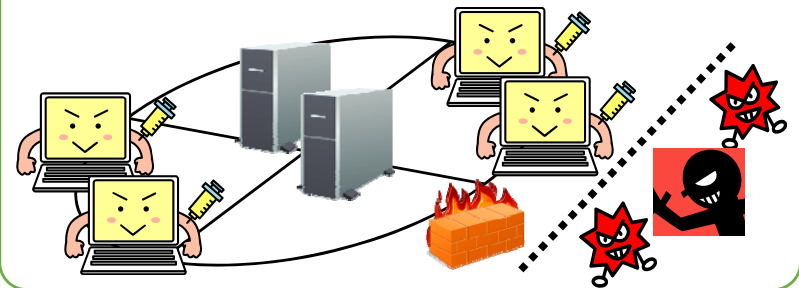
ウィルス対策

不正侵入対策



ファイアウォール設置  
ウィルス対策

ファイアウォール等の統一した整備による底上げ



政府共通プラットフォームに移行すること...

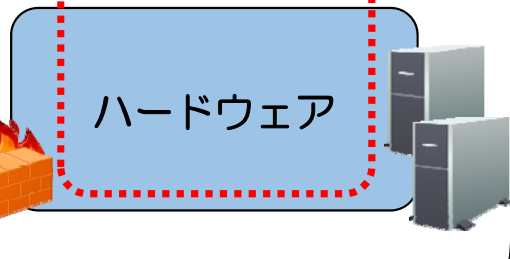
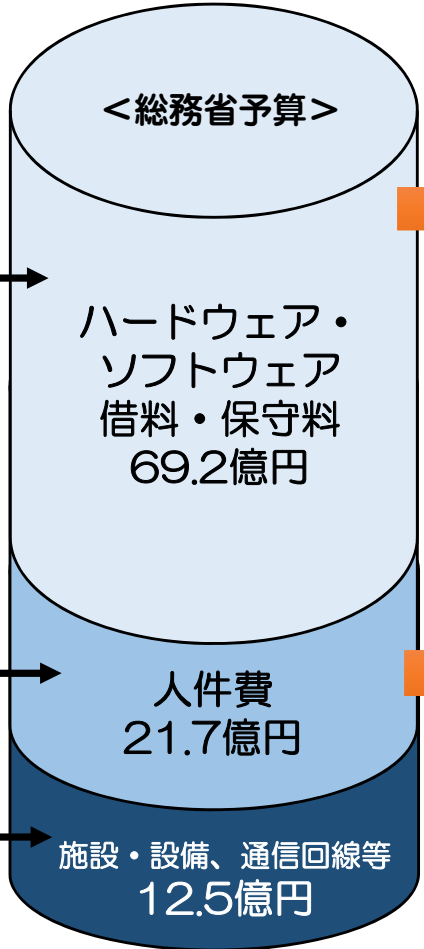
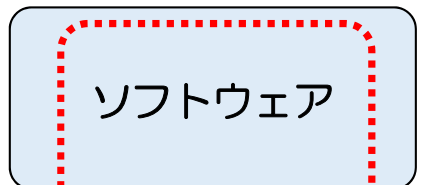
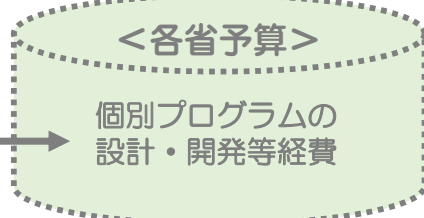
「府省共通システム」や「各府省が個別に整備・運用している中小規模のシステム」を中心に投資対効果を踏まえて集約化し、政府全体としてのシステム経費の効率化やセキュリティの向上を図るための一方策（他の方策例：システムの統廃合、民間クラウドの活用）

# 政府共通プラットフォームの運用経費の見直しについて

## システム構成イメージ

## 費用構造

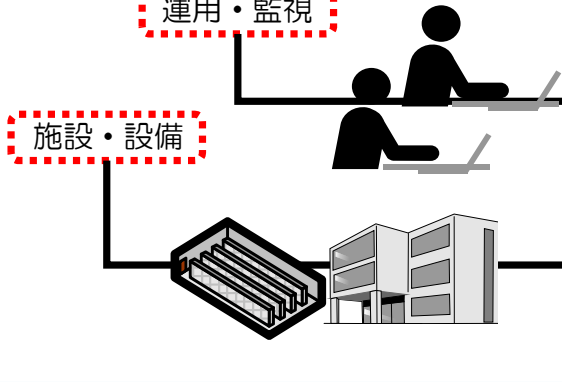
## 見直しの視点



セキュリティ対策

運用・監視

施設・設備



(平成28年度実績)

### 会計検査院による主な指摘事項 (H28.10)

- 運用経費の低減が図られているとは判断できない状況
- 仮想化技術の活用によるサーバ台数削減効果が認められない状況

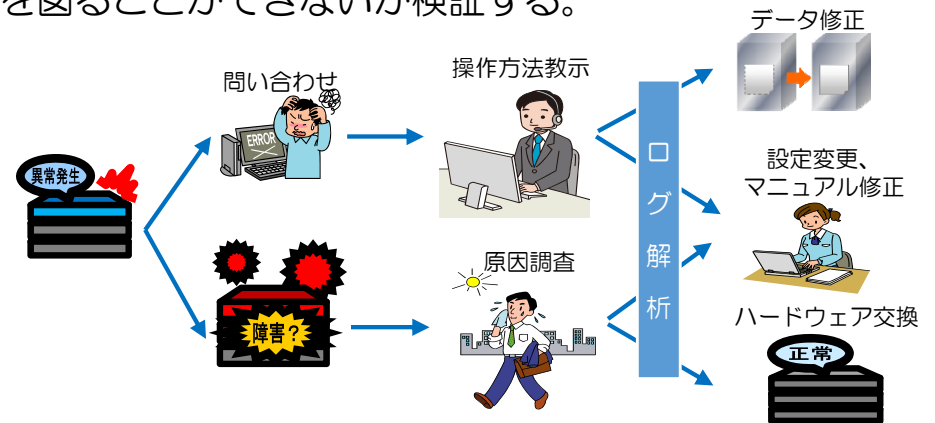
(これまで業務のピーク時にシステムが停止しないよう安定稼働を前提としてリソースを準備してきたが、運用開始から4年経過したことを踏まえ)

- 使用実績を確認することにより、サーバ等の共用が可能かどうか検証する。

(運用開始後のソフトウェアの機能向上を踏まえ)

- 現行ソフトウェアと同等他種を比較・検討し、より費用対効果の高いものに代替できないか改めて検証する。

- 事業者がどのような障害対応・問合せ等に対応したのか、対応に要した時間はどの程度か、どれだけの人員・手順で対応したのかなど詳細に把握・分析し、作業の効率化を図ることができないか検証する。



概算要求に向けてこれらの検証作業を実施し、各システムの更改や新規移行のタイミングで順次反映